

# 環境

物流事業において環境負荷は避けられません。その事実を深く厳しく受け止め、いかにして負荷を減らし、環境にやさしい持続可能な事業を実現できるか、NRSグループは考え続けます。

## 環境方針

当社は、化学製品を中心とした運送・保管業務及びその他付帯する業務を展開する中で環境汚染の予防に配慮した物流を推進する。

環境に関する法令、条例、その他締結した協定、申し合わせ等を遵守する。

当社の事業活動が環境に与える影響を考え、地球温暖化、大気汚染等に重大な影響を与えるCO<sub>2</sub>の排出削減等次に掲げる項目に対して重点的に取り組む。(営業所、グループ会社が行なう環境に関する活動の支援、推進、管理等を含む)

環境方針は、掲示その他の方法で社員及び関係先に周知する他、求めにより一般に開示する。

大気汚染防止、水質汚濁防止及び地球温暖化防止対策  
 廃棄物の適正な管理とリサイクルの推進による廃棄物の削減  
 省資源、省エネルギー、グリーン購入の推進

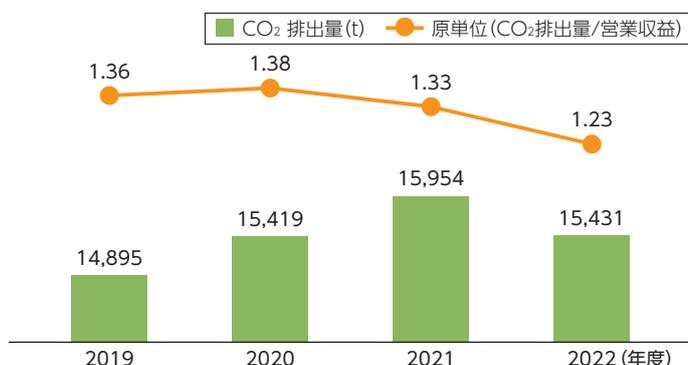
## カーボンニュートラルの実現を目指して

2050年にカーボンニュートラルを達成とする日本のNDC(国が決定する貢献)を前倒しし、創立100年の2046年の達成を宣言しました。SDGs完了の2030年時点では、購入電力のCO<sub>2</sub>フリー化および荷役設備・社有車類のEV化完了を目標とし、NRSグループ全体で取り組みます。達成には一企業の努力では限界があり関連企業等との協業が不可欠ではありますが、まずは対応組織への参画・果たすべき役割の明確化に努めます。

2022年度現在、すでに太陽光発電設備第一期計画への着手や省エネルギー省資源推進体制の整備は完了しました。また、グループ全体の電力使用量を管理し、CO<sub>2</sub>排出量へ換算しています。一方、化石燃料由来のCO<sub>2</sub>排出対策としては、水素をはじめとするクリーン燃料への切り替えが不可避であることから足元の活動として、低CO<sub>2</sub>化に向けた新燃料導入検討を開始しています。

## CO<sub>2</sub>排出削減への取り組み

NRSグループでは、事業活動で発生するエネルギー使用量やCO<sub>2</sub>排出量を把握しています。2022年度は、国内の環境目標を「営業収益百万円あたりのCO<sub>2</sub>排出量削減率を前年度比▲3%改善」とし、▲7%以上の改善を達成しています。



### 2022年度環境目標

2021年度比エネルギー原単位  
 目標：▲3.0%  
 実績：▲7.5%



## グリーン経営認証

2005年以降トラック業および倉庫業の登録を開始し、現在はトラック業10拠点、倉庫業2拠点の認証登録を完了し更新を続けています。

また、昨今のトラック業を取り巻く環境は、大きな変化を迎えており、ドライバーの人手不足や燃料価格の高騰、CO<sub>2</sub>の排出削減など、課題が山積みです。当社では課題解決のため特にエコドライブを積極的に取り組んでいます。

<エコドライブの主な取り組み事項>

- 荷物の積み降ろしの際には、アイドリングストップを心がける
- 急発進、急加速、急ブレーキを控える
- 不要なものは積まない
- シフトアップは早めに行う
- 経済速度で走る
- 無駄な走行はしない（例：走行ルート of 事前確認など）
- タイヤの空気圧を適正にする
- 空吹かしをしない
- エアコンの設定温度（使用）を控えめにする



## 太陽光発電設備の設置

すでに太陽光発電設備を設置している横浜物流センターの他に、袖ヶ浦倉庫、群馬物流センター、土気流通センター、大阪物流センター、中部物流センターの5拠点について導入を検討しています。2022年11月より工事、2023年2月より運用開始を予定しており、これにより2023年度のCO<sub>2</sub>排出量は▲330t-CO<sub>2</sub>を見込んでいます。残りの拠点についても引き続き太陽光発電設備導入を検討していきます。



## 国内倉庫全拠点のLED化完了

国内9拠点のうち6拠点は完全LED化完了、残り3拠点についても80%以上はLED化が進んでいます。

千葉物流センターにおいては、完全LED化により、▲60万kWh（CO<sub>2</sub>排出量▲600t-CO<sub>2</sub>）を達成しています。

## 国内拠点のグリーン電力導入

SDGs完了の2030年時点で購入電力のCO<sub>2</sub>フリー化が目標となっています。2022年度は千葉事業所、群馬事業所で2022年8月より再エネ100%電力への切り替えを行っています。これはNRSグループで初となるグリーン電力の導入になります。

ウクライナ情勢の影響などにより国際燃料市場における電力供給不足が懸念されていますが、次年度以降も引き続き、グリーン電力への切り替えを進めていきます。

## 「モーダルシフト優良事業者表彰制度」 7年連続の表彰

物流手段をトラック輸送から、大量輸送が可能な海上輸送や鉄道輸送に転換することで、CO<sub>2</sub>排出量の削減、エネルギー消費量の節約など環境負荷の低減に貢献しています。2021年度は、群馬県から北海道への化学製品の輸送をトラック輸送から海上輸送へ転換し、日帰り運行が可能となったことでCO<sub>2</sub>排出量削減とトラックドライバーの負担軽減を実現しました。この取り組みが評価され、2021年11月に令和3年度「モーダルシフト優良事業者表彰制度」の「新規開拓部門優良事業者賞」を受賞しました。



## Ⅰ 廃棄物の低減

### リターナブル容器による廃棄物低減

ISOタンクコンテナ、IBC等のリターナブル容器は、洗浄して繰り返し利用可能な環境にやさしい運搬容器です。例えば、ドラム缶輸送からISOタンクコンテナによる輸送に切り替えた場合、約80本分のドラム缶と、その輸送にかかわるパレットなどの副資材の廃棄物低減に寄与することができます。

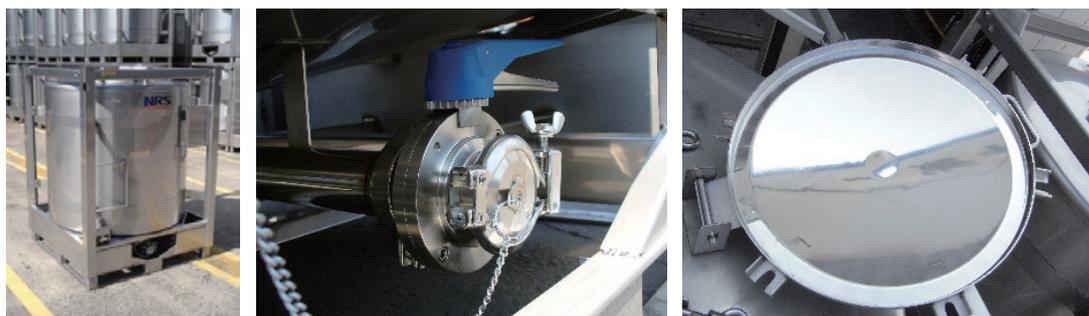
### 廃棄物の適正な管理とリサイクルの推進

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、本社およびすべての事業所、物流センター、営業所、出張所を対象とした「廃棄物管理規則」を定めています。廃棄物の減量化や適正な管理の徹底に努め、最終廃棄物排出ゼロ（ゼロエミッション）の実現、カーボンニュートラルの達成を目指します。

### 環境にやさしい新容器「グリーンIBC」の開発

当社のサニタリーIBCs容器は繰り返し利用できるリターナブル容器であり、高い耐薬品性を有します。積載品の品質維持効果、容器洗浄後の抗菌効果等が認められ、化粧品をはじめとするトイレタリー業界で幅広く活用いただいています。

当社では、この容器の外面に酸化チタン光触媒コーティングを施したことにより環境にやさしい新容器「グリーンIBC」を開発しました。酸化チタン光触媒コートは大気汚染物質の一種である窒素酸化物を酸化分解し周辺の空気を浄化する働きがあります。また、外面が汚れても太陽光の作用で自浄するセルフクリーニング機能もあり、容器をクリーンで清潔な状態に保つことができます。



## Ⅰ 環境汚染の防止

### 大気汚染防止への取り組み

大気汚染防止対策として、当社のコンテナデポ（洗浄・修理・メンテナンス施設）、タンクヤードでは、作業場で発生する臭気をスクラバーで処理しています。

### 水質汚濁防止への取り組み

コンテナデポでは、コンテナ洗浄作業から発生する廃水は排水処理設備にて基準に従い確実に処理しています。

### 環境ISO認証の取得

2022年2月21日、コンテナデポサービスを行っている川崎ConTechにおいて環境ISO14001認証を取得しました。ISO14001認証の取得は、本社、千葉BC、千葉BC袖ヶ浦倉庫、横浜BC、高石ケミカルに続き6拠点目となります。また、2022年5月より神戸ConTechおよび周南ConTechにおいても環境ISOの運用を開始しています。審査を経て認証取得は2023年2月を予定しています。

